

○計画期間：平成22年3月～平成27年3月（5年1月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成25年度終了時点（平成26年3月31日時点）の中心市街地の概況

1期計画に掲載している65事業については、一部にスケジュールの遅れや、未着手の民間事業があるものの概ね順調に進捗しているが、指標とした歩行者・自転車通行量及び居住人口の数値目標は達成していない状況にある。

中心市街地の状況は、福島駅北側に位置する百貨店が撤退した空きビルを民間事業者と行政が連携を図り再生した「曾根田ショッピングセンター整備事業」（平成22年11月）や、老舗夜型飲食街として昭和40年代から一時代を築いた仲見世の閉鎖を受け、昼型飲食店や物販・交流スペースを中心にテナントミックス施設として整備した「仲見世整備事業」（平成23年2月）が完成するなど、中心市街地の魅力の向上に繋がる回遊拠点の整備により、周辺道路では歩行者・自転車通行量が増加しており、周辺商店街からは、賑わいが増したという声が聞かれる。交通の流動強化として、福島駅前から国道13号を結ぶ栄町置賜町線、福島駅南地区で鉄道を挟んだ東西地区を結ぶ矢剣町渡利線が開通（平成23年4月）し、快適性や利便性の向上が図られた。また、快適居住の促進については、関連する施設整備が現在実施中であり、施設整備の完了とともに徐々に効果が発現されると見込まれ、併せて認定計画に掲載されていない民間マンション建設も整備が完了している。

その一方で、東日本大震災により運営母体である民間企業が被災を受け、事業への着手が困難となっている太田町東地区高齢者住宅整備事業もあり、快適居住促進の受け皿となる事業の進捗に影響を及ぼしている。

また、東日本大震災に起因して発生した原発事故からの風評被害は払拭までには至っていないが、認定計画掲載事業となっているソフト事業と併せ、福島市復興計画に基づく除染作業や復興関連イベントを鋭意推進している効果として、市内全域の観光客数が震災前と比較し90%にまで回復しつつあり、今後、中心市街地の除染作業の完了とともに、来街者の増加が見込まれている。しかし、居住人口については、特に子供を持つ家庭を中心に自主避難のため放射線量の低い郊外又は市外・県外へ流出し定住している一面も見られることから、目標を達成することは厳しい状況となっている。

2. 平成25年度の実施等に対する中心市街地活性化協議会の意見

分科会において、福島駅前通りリニューアル検討会や県庁通りリニューアル検討会を随時開催するなど、中心市街地活性化を図る上で必要な個別事業や活性化事業について検討を行い、官民が連携して取り組むことができた。

しかし、東日本大震災及び原発事故における風評の影響もあり目標指標の達成に至っていないことから、引き続き認定基本計画掲載事業の計画的な進捗管理を行うとともに民間開発の誘引を図り、目標達成に向けて第2期計画へ結び付けていく必要がある。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目 標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
賑わいの創出	歩行者・自転車通行量	33,276 人/日 (H21)	36,100 人/日 (H26)	33,840 人/日 (H25)	②	②
快適居住の促進	居住人口	15,417 人 (H21)	15,550 人 (H26)	14,883 人 (H25)	④	④

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

2. 目標達成見通しの理由

歩行者・自転車通行量

歩行者・自転車通行量の取り組みの進捗状況は概ね予定どおりであり、中心市街地内の9地点で実施している歩行者・自転車通行量調査の推移は、基準年値と比較して1.7%の伸びに留まっている。これは、平成25年度の調査日が雨天であったことも数値に影響していると思われるが、中心市街地内では全力を挙げて除染作業に取り組んでいるところであり、来街者は不必要な回遊を避けていることも影響していると想定される。このことから、取組の進捗状況は概ね予定通りであるが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

居住人口

居住人口については、長引く景気低迷から地価の下落や経済状況の悪化等による事業内容の見直しや、東日本大震災の影響からスケジュールの見直しを余儀なくされる民間事業もあり、快適居住促進の受け皿となる事業の進捗に支障をきたしている。また、東日本大震災による原発事故により大きく流出した中心市街地居住人口は回復傾向にはあるものの未だに安定はしておらず、中心市街地の活性化を図るうえで居住人口の流出は深刻な悪影響を与えている。このことから、取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

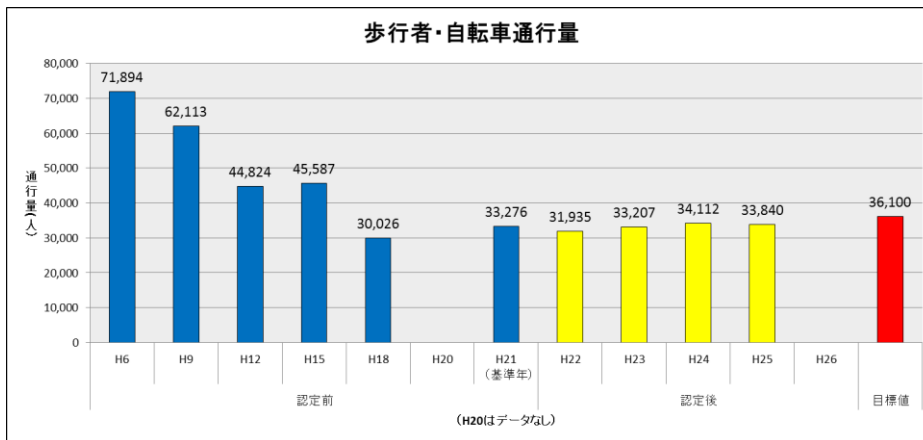
前回と同じ。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

目標1【賑わいの創出】

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P76～P86

●調査結果の推移



年	通行量(人)
H21	33,276 (基準年値)
H22	31,935
H23	33,207
H24	34,112
H25	33,840
H26	
H26	36,100 (目標値)

※調査方法：午前8時から午後7時までの連続11時間の歩行者・自転車通行量（毎年1回、7月に実施）

※調査主体：福島市

※調査対象：歩行者及び自転車通行者

※通行量値：平日・休日の中心市街地9地点を加重平均した値

【加重平均：[休日(2日)+平日(5日)]/7日】

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①曾根田西地区暮らし・にぎわい再生事業・曾根田ショッピングセンター整備事業
(株福島まちづくりセンター・福島市)

事業完了時期	【完】平成22年11月				
事業概要	中心市街地の空ビル等を新たな集客施設として再整備し、集客拠点づくりによる賑わいの創出を行うもの。 1～2階 商業施設（1階 8,500㎡、2階 6,200㎡） 4階 公共施設「アクティブシニアセンター[A・O・Z（アオウゼ）]」				
事業効果又は進捗状況	空ビルを再生し地元企業がキーテナントとして入居した商業施設（曾根田ショッピングセンター）への来場者はオープンから一年間で560万人を超え、その4階に市の生涯学習関連施設として入居したアクティブシニアセンター[A・O・Z（アオウゼ）]は、東日本大震災の影響で約2ヶ月間休館したものの、年間60万人が来館し、交流人口増加による新たな賑わいを見せている。また、相乗効果により周辺駐車場の利用者や周辺道路の通行者数も増加している。 歩行者・自転車通行量 単位：人/日				
	直近の測定地点	H22 (OP前)	H24 (OP後)	H25 (最新値)	H22比
	⑦パラカ駐車場前	2,922	4,982	5,512	89%増
	※調査方法：午前8時から午後7時までの連続11時間の歩行者・自転車通行量 ※通行量値：平日・休日の通行量を加重平均した値 ※H25（最新値）の調査日は雨天				

②置賜町地区暮らし・にぎわい再生事業・仲見世整備事業（株仲見世）

事業完了時期	【完】平成23年2月													
事業概要	中心市街地にあるパセオ通りに面した老舗飲食店街の老朽化に伴い昼型飲食店や物販・交流スペースを中心としたテナントミックス施設として再生し、歩行者通行量の増加によって商店街の活性化に寄与するもの。													
事業効果又は進捗状況	<p>テナント名称を【パセナカM i s s e（みっせ）】として平成23年2月にオープンした。オープンから約2週間後に東日本大震災に見舞われながらも、年間57万人が来場し、当初予想1,118人/日を上回る1,642人/日(H25)となっている。</p> <p>歩行者・自転車通行量 単位：人/日</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">直近の測定地点</th> <th style="width:15%;">H22 (OP前)</th> <th style="width:15%;">H24 (OP後)</th> <th style="width:15%;">H25 (最新値)</th> <th style="width:15%;">H22比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>③北日本銀行前</td> <td>2,837</td> <td>3,465</td> <td>2,678</td> <td>▲5.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※調査方法：午前8時から午後7時までの連続11時間の歩行者・自転車通行量 ※通行量値：平日・休日の通行量を加重平均した値 ※H25（最新値）の調査日は雨天</p>				直近の測定地点	H22 (OP前)	H24 (OP後)	H25 (最新値)	H22比	③北日本銀行前	2,837	3,465	2,678	▲5.6%
直近の測定地点	H22 (OP前)	H24 (OP後)	H25 (最新値)	H22比										
③北日本銀行前	2,837	3,465	2,678	▲5.6%										

③旧米沢藩米蔵復原事業（福島市、御倉町かいわいまちづくり協議会）

事業完了時期	【完】平成23年2月			
事業概要	江戸時代に阿武隈川で行われていた「舟運」で使われ解体保存していた旧米沢藩米蔵を、市民が利用できる施設に復原し、都市景観の魅力向上と回遊性の向上を図るもの。 米蔵復原 延床面積 A=33.49 m ²			
事業効果又は進捗状況	旧米沢藩の米蔵は、阿武隈川の舟運、福島河岸の歴史を伝える蔵として、また文化交流の新たな拠点として、旧日本銀行役宅である「御倉邸」と「おぐら茶屋」を一体的に整備した御倉町地区公園内に復原した。このことにより、阿武隈川を背景とした日本庭園の美しい景観が見どころの「御倉邸」に歴史・文化施設が加わり、イベント開催時等に活用する機会も増加したことで、公園には年間2万3千人の来場者が訪れている。			

④栄町置賜町線道路事業（福島市）

事業完了時期	【完】平成22年度				
事業概要	福島駅前から国道13号までの都心中央地区内のアクセス強化と歩行者・自転車の安全性を確保し回遊性の向上を図るもの。 整備延長 L=220m、幅員 W=22m				
事業果又は進捗状況	従来的一方通行から対面通行に整備するとともに、歩道及び自転車走行レーンを整備したことにより通行者の安全性が確保され、都心中央地区内のアクセス強化と回遊性が向上している。 歩行者・自転車通行量 単位：人/日				
	直近の測定地点	H22 (開通前)	H24 (開通後)	H25 (最新値)	H22 比
	⑨東北電力前 (さんかく広場)	1,728	2,807	2,460	42%増
	※調査方法：午前8時から午後7時までの連続11時間の歩行者・自転車通行量 ※通行量値：平日・休日の通行量を加重平均した値 ※H25（最新値）の調査日は雨天				

⑤福島駅西口駅前広場再整備事業（福島市）

事業完了時期	【実施中】平成26年度			
事業概要	バスプールに一般車両が進入しバスの運行に支障を来している現状を踏まえ、公共交通エリアと自転車駐車場を含む一般車両エリアへ住み分けする再整備を行うもの。 バスプール、一般駐車場、自転車駐車場等の整備			
事業効果又は進捗状況	福島駅西口駅前広場を再整備することにより、バスの安全な運行を確保するとともに、一般車両及び自転車利用者の利便性を向上させ、公共交通機関の利用促進を図ることで活性化が見込まれる。 平成24年度は実施設計、平成25～26年度は再整備工事（駅前広場改築及び自転車駐輪場設置）を実施する。関係機関との協議・調整を進め、事業の円滑な進行管理に努める。			

⑥【追加】高質空間形成施設・福島駅東口バスプール（福島市）

事業完了時期	【実施中】平成26年度			
事業概要	ロータリーとなっている福島駅東口バスプールについて、バス利用者の安全な乗降環境を確保するため、バス乗降所改良及び上屋設置、歩行支援施設整備を行うもの。			
事業効果又は進捗状況	福島駅東口バスプールは、乗降所とバスプールの段差が大きく、バス利用者の乗降に支障を来しているほか、バスの低床化により停車時のバス寄せにも支障を来しているため、乗降所の段差解消及び上屋設置等により乗降環境を改善するとともに、バスの走行安全性を確保し、公共交通機関の利用促進を図ることで中心市街地の回遊性の向上を図る。 平成25年度は実施設計及びバス乗降所改良を実施、平成26年度は乗降所への上屋設置等を行い、高質空間形成施設として供用を開始する。			

⑦まちなか自転車利用促進事業（福島市）

事業完了時期	【実施中】平成 26 年度
事業概要	<p>平坦な地形的特長から、端末交通手段として機動性の高い自転車が市民等の足として定着している現状から、レンタサイクル貸出所の増設や乗り捨てシステムの導入、貸出時間の延長等、システムの見直しをしていく他、駅前通りのリニューアルを見据え、新たな路上駐輪施設の可能性を、社会実験により検証するもの。</p> <p>自転車駐車場の配置の検討、新レンタサイクルシステム社会実験、レンタサイクルHP開設</p>
事業効果又は進捗状況	<p>自転車による中心市街地回遊による利便性向上を図ることにより、賑わいの創出が見込まれる。</p> <p>平成 24 年度はレンタサイクル貸出所増設検討及び駅前通り駐輪実験、平成 25～26 年度は貸出所増設実験、施設整備等を実施する。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

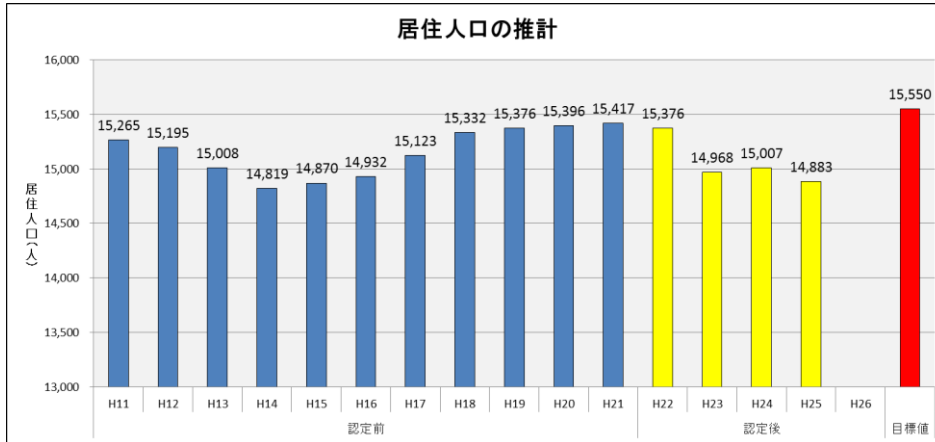
歩行者・自転車通行量の取り組みの進捗状況は概ね予定どおりであり、中心市街地内の 9 地点で実施している歩行者・自転車通行量調査の推移は、基準年値と比較して 1.7%の伸びとなっている。特に曾根田西地区暮らし・にぎわい再生事業により商業施設と公共施設が入居する複合施設として整備が行われた「曾根田ショッピングセンター」付近ではオープン前と最新値（H25）を比較し 88.6%の増加、仲見世整備事業により取り組みが行われた「パセナカMissé（みっせ）」付近ではオープン前と最新値（H25）の比較では、調査日が雨であったこともあり▲5.6%であったが、H24との比較では 22.1%の増加となっていることから、事業実施による効果発現が顕著に見受けられる。しかし、その他の調査地点の通行量は、東日本大震災及び原発事故の影響もあり、横ばい若しくはマイナスの通行量となっていることから、全体の歩行者・自転車通行量は 1.7%の伸びに留まっており、目標値としている 36,100 人/日は達成していない状況である。

このことから、整備を行った集客施設周辺の通行量が増加しているにも拘わらず、中心市街地全体に通行量の増加が波及していないことは、来街者が中心市街地内を回遊せずに帰宅している傾向があると思われる。そのため、部分的に増加した来街者を点から面に分散させ回遊を促すことで、中心市街地全体に賑わいを広げていくことが必要であり、現在実施している各事業を計画的に推進しながら集客拠点づくりと回遊環境の向上を図り、ソフト事業と連携した取り組みによる相乗効果により、更に賑わいを広げていく必要がある。

目標 2 【快適居住の促進】

「居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P87～P95

●調査結果の推移



年	居住人口(人)
H21	15,417 (基準年値)
H22	15,376
H23	14,968
H24	15,007
H25	14,883
H26	15,550 (目標値)

※調査方法：中心市街地区域内の住民基本台帳登録人口

※調査月：10月

※調査主体：福島市

※調査対象：中心市街地内の居住者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①五老内町地区暮らし・にぎわい再生事業（福島市）

事業完了時期	【実施中】平成26年度
事業概要	市役所新庁舎西棟内に市民が利用できる多目的広場及び託児スペースを設けるもの。 西棟 RC 地上6階建 多目的ホール、談話・託児スペース
事業効果又は進捗状況	都市福利施設の充実と交流環境の整備により都心居住を快適にするとともに賑わいの創出が見込まれる。 平成23年度に旧庁舎除却工事が完了し、平成25～26年度に建築工事を計画しているが、東日本大震災の影響により建築工事の着手時期が不透明となっている。

②曾根田西地区暮らし・にぎわい再生事業（㈱福島まちづくりセンター・福島市）

【再掲】P3参照

③早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業（(有)グリーンアカデミー）

事業完了時期	【実施中】平成26年度
事業概要	夜間救急医療施設を整備すると共に、併設して介護老人福祉施設、高齢者対応住宅、保育所、介護専門学校等の複合施設を整備するもの。 賃貸住宅55戸
事業効果又は進捗状況	医療並びに救急医療の充実や介護福祉の充実を図り、雇用の創出と高齢者に対する居住環境の向上による賑わいの創出が見込まれる。 平成24～26年度に建築工事を計画していたが、既存建物の補償及び地元調整に時間を要したため、事業スケジュールの見直しが必要となっている。

④仲間町地区暮らし・にぎわい再生事業（(社)福島県労働者福祉基金協会）

事業完了時期	【実施中】平成26年度
事業概要	市民ギャラリー、カフェスペース、金融機関等を整備し、文化・交流機能の充実を図るもの。 市民ギャラリー、カフェスペース、金融機関、高齢者福祉施設等の整備
事業効果又は進捗状況	公募により愛称を「ラコパふくしま」として平成26年5月中旬のオープンを目指しており、文化・交流機能の充実による街の魅力向上と賑わいの創出が見込まれる。

⑤【追加】上町地区暮らし・にぎわい再生事業（(財)大原総合病院）

事業完了時期	【実施中】平成28年度
事業概要	中心市街地内に唯一ある総合病院を新築移転として整備を行うもの。 医療施設の整備、地上8階建、病床数350床
事業効果又は進捗状況	都市機能の基盤強化を図り、まちなか居住環境の向上と賑わいの創出が見込まれる。 平成24～25年度は基本設計等を実施し、平成26年度に建築工事着工を目指している。

⑥栄町南地区高齢者住宅整備事業（医療法人湖山荘福島松ヶ丘病院）

事業完了時期	【完】平成25年度
事業概要	高齢者対応賃貸住宅、クリニック、デイ・ケア施設を一体的に整備するもの。 地上10階建て 1～4階 クリニック、デイ・ケア施設 賃貸住宅 43戸
事業効果又は進捗状況	施設名称を「羽山ヒルズ」として平成25年11月にオープンし、平成26年3月末の入居率は67%となっている。高齢化社会に対応するための医療・介護施設及び住宅を整備し、高齢者が安心して居住できる環境づくりを行い、中心市街地の定住人口の増加が期待される。

●目標達成の見通し及び今後の対策

居住人口については、長引く景気低迷から地価の下落や経済状況の悪化等による事業内容の見直しや、東日本大震災の影響、物価上昇に伴う事業費の高騰からスケジュールの見直しを余儀なくされる民間事業もあり、快適居住促進の受け皿となる事業の進捗に支障をきたしており、目標数値を達成することは極めて困難な状況となっている。

特に、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に起因した原発事故による放射性物質問題に関連したと思われる人口流出が、平成23年度末までにおいて▲526人（3.4%）、震災後に最小人口となった平成24年6月末では▲552人（3.6%）となっており、子供の健康への影響を心配し、子どもを持つ世帯、とりわけ乳幼児～小学低学年生を持つ世帯が多いとされる20代後半から40代前半の年代層において、家族単位で空間放射線量の低い郊外又は市外・県外へ流出していることが要因となっている。その後、福島市復興計画に基づく除染作業の取り組みにより、人口動態は回復傾向にはあるものの未だに安定はしておらず、中心市街地の活性化を図るうえで居住人口の流出は深刻な悪影響

を与えている。

「快適居住の促進」に関連する具体的な事業では、東日本大震災により運営母体である民間企業が被災し事業への着手が困難となっている太田町東地区高齢者住宅整備事業もあるが、昨年11月にオープンし入居を開始した栄町南地区高齢者住宅整備事業による「羽山ヒルズ」や、本年5月にオープンを予定している仲間町地区暮らし・にぎわい再生事業による「ラコパふくしま」があり、都心居住の促進と交流人口の拡大による快適居住の促進が図られ、徐々に効果が発現されることが期待される。

これらのことから、本市としては東日本大震災からの復興、更には原発事故による放射性物質対策に全力を挙げて引き続き取り組むとともに、現在実施中となっている都市福利施設や居住施設の整備、各拠点施設を回遊できる交通環境の整備や新規創業者支援を含めた空き店舗対策等のソフト事業を推進し、更なる民間開発の誘引を図り、目標達成に向けて多様な主体と連携して最大限努力していく。